

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2025年2月28日）

■第1版 第1刷（2024年12月15日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
執筆者一覧					
12		酒巻和弘 京都大学大学院 生命科学研究所 多系統萎縮症治療学講座	酒巻和弘 京都大学大学院 医学研究科 多系統萎縮症治療学講座		24/12/27
3章-5 オートファジー細胞死					
112	図5 C)のキャプションの 3行目	マクロファージに貪食されていた(🔵🔴 食中のマクロファージ)	マクロファージに貪食されていた(🔵🔴)	該当の文言の割愛	25/02/28
113	上から3～5行目	が示されている。 さらに、肝細胞がんやグリオーマにおいて、オートファジーの基質分子であるp62の過度な蓄積や凝集(オートファジーの破綻を示唆する結果である)が報告されている。 これらの知見は、オートファジーの機能低下が発がんやがんの進展につながる可能性を示している。	が示されている。これらの知見は、オートファジーの機能低下が発がんやがんの進展につながる可能性を示している。	該当の文章の割愛	25/02/28
巻末付録					
247	フェロトシス GP4、SLC7A11 (xCT)の「備考」欄		備考の文言の位置の修正	※1を参照ください	25/01/24
247	フェロトシス 4-HNE(クローン名 IG10)の「文献」欄	二	PMID: 34736120		25/01/24
250	リスト末尾	なお、本リストにある抗体が正しくworkすることは本書を執筆した研究者がいくつかの方法(おそらくは主に Western blotや免疫染色)で確認はしている。しかしリスト中の「 用途 」欄には カタログに掲載されている用途 を便宜的に記載しているため、 Western blotや免疫染色以外の用途 で使用する場合には、注意が必要である。	なお、本リストにある抗体が正しくworkすることは本書を執筆した研究者がいくつかの方法(おそらくは主に Western blotや免疫染色)で確認はしている。しかしリスト中の「 反応種 」欄「 用途 」欄は 基本的にメーカー各社のカタログに掲載されている情報をもと に記載しているため、 実際に使用する場合には、注意が必要である。 また、本リストの作成に協力いただいた先生から、実際に使用できた「反応種」や「用途」に関する情報などの補足をいただいております。本書の「書籍特典ページ」に記載しているので参考にされたい。「書籍特典ページへのアクセスは本書「動画視聴ページのご案内」(p.13)を参照」。		25/01/24

図表

※1 赤字の文言が GPX4 の「備考」欄 から SLC7A11 (xCT) の「備考」欄 へ移動となります。

関与する現象	抗原	クローン名	メーカー	カタログ番号	反応種	用途	免疫動物	参考文献	備考
フェロトシス	GPX4	EPNCIR144	Abcam	ab125066	human, mouse, rat	WB, IHC, IF/ ICC, FC	rabbit	PMID : 35922516	
		3F5G5	Proteintech	67763-1-Ig	human, mouse, rat, 他	WB, IP, IHC	mouse	PMID : 37385075	
	SLC7A11 (xCT)	3A12	Abcam	ab300667	human	WB, IP, IF/ICC	rat	PMID : 37637264	WB サンプル調整の際は ボイルせずに、サンプル バッファー内で 50℃、3 分間の加温。検出バンド サイズは推定分子量と異 なり 35～40 kDa.
		-	Cell Signaling	98051	mouse	WB	rabbit	PMID : 37380771	WB サンプル調整の際は ボイルせずに、サンプル バッファー内で 50℃、3 分間の加温。検出バンド サイズは推定分子量と異 なり 35～40 kDa.